

平成 22 年 8 月 4 日

各 位

会 社 名 株式会社エイアンドティー  
 代表者の役職氏名 代表取締役社長 磯 村 健 二  
 (コード番号：6722)  
 問 い 合 わ せ 先 専 務 取 締 役 黒 澤 研 治  
 電 話 番 号 0 4 5 - 3 1 7 - 1 2 5 2 (代)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 12 月期(平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想について、平成 22 年 2 月 10 日付「平成 21 年 12 月期 決算短信 (非連結)」にて発表いたしました、平成 22 年 12 月期 (平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日) の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想額を下記のとおり修正いたします。

## 記

## 1. 平成 22 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正 (平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	3,810	274	261	143	22 円 94 銭
今 回 修 正 (B)	3,837	419	415	211	33 円 74 銭
増 減 額 (B-A)	27	145	154	67	—
増 減 率 (%)	0.7%	53.2%	59.1%	47.1%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 平成 21 年 12 月期第 2 四半期	—	—	—	—	—

(注) 平成 21 年 12 月期第 2 四半期につきましては、連結財務諸表を作成し、財務諸表を作成していないため、記載しておりません。

## 2. 第 2 四半期累計期間業績予想修正の理由

平成 22 年 12 月期の第 2 四半期累計期間において、臨床検査機器システムは上期見込んでいた案件が一部下期にずれ込んだため、約 35 百万円減少する見込みであります。また、検体検査装置販売後に安定的な需要が見込まれる臨床検査試薬・消耗品等の販売について、臨床検査試薬は主に OEM 販売が期初の販売予想を下回るため、約 74 百万円減少する見込みであります。一方、消耗品等は、主に OEM 販売が期初の予想を上回るため、約 137 百万円増加する見込みであります。その結果、売上高は前回の予想額より約 27 百万円増加する見込みであります。利益面においては、主に臨床検査情報システム、検体検査自動化システムの採算性が向上したことに加え、販売費及び一般管理費を約 80 百万円抑制したことにより、営業利益が約 145 百万円、経常利益が約 154 百万円増加する見込みであります。また、特別損失として、投資有価証券評価損約 25 百万円、本社移転費用約 14 百万円を計上する見込みであります。その結果、四半期純利益は約 67 百万円増加する見込みであります。

# NEWS RELEASE

## 3. 平成 22 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	7,800	427	400	220	35 円 16 銭
今回修正 (B)	7,800	620	600	294	46 円 99 銭
増減額 (B-A)	—	193	200	74	—
増減率 (%)	—	45.2%	50.0%	33.6%	—
(ご参考) 前期実績 平成 21 年 12 月期	7,165	328	300	459	73 円 44 銭

## 4. 通期業績予想修正の理由

通期の業績予想につきましては、臨床検査機器システムは期初に見込んでいた年間案件のうち、競合他社との競争による失注、病院システム更新の年度内予算が来年度へ延期になる等の理由により、期初予想を約 145 百万円下回る見込であります。安定事業である臨床検査試薬・消耗品等の販売について、臨床検査試薬は OEM 販売が上期同様、販売量が下回り約 150 百万円減少すると見込んでおります。一方、消耗品等は OEM 販売が上期同様、順調に推移し約 295 百万円増加すると見込んでおります。その結果、売上高は期初予想と同額を見込んでおります。

利益面においては、臨床検査情報システム、検体検査自動化システムの採算性向上に加え、販売費及び一般管理費を約 43 百万円抑制することにより、営業利益が約 193 百万円、経常利益が約 200 百万円増加する見込みであります。また、特別損失として、投資有価証券評価損約 25 百万円、本社移転費用約 40 百万円を計上する見込みであります。その結果、当期純利益は約 74 百万円増加する見込みであります。

以上

(注) 上記の業績見通しにつきましては、現時点で得られた情報に基づいて作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。